



No. 18

10月8日天皇陛下のご臨席の元、平城遷都1300年記念式典に招待を受けました。いろんな催しの最後に平城遷都こども宣言が行われました。そこで、あらためて、1300年前、この奈良の都に、律令国家が生まれ、今の国の礎が築かれたことを教えられました。記念すべきこの地で、第61回全日本遠的選手権大会が行われます。1300年前の建国の意気に想いを抱いて、この大会に参加できることを喜びたいと思いました。第61回にして全日本遠的選手権大会も持ち回りとなります。新たな1ページとなることでしょう。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

ゆめ半島  
千葉国体

少年女子 (遠的)

準優勝 おめでとう！！

### ■ ゆめ半島千葉国体を終えて

国体少年女子監督 澤 一彦

近畿ブロック大会から1週間後、少年女子チームは千葉での本国体に向け、残暑厳しい中練習を再開しました。メンバー全員が3年生ということもあり、普段の練習が十分にはできない状況ではありましたが、「日本一を目指そう」を合い言葉に、より質の高い練習ができるよう心がけました。大宇陀高校での練習を中心に、岐阜への遠征、県弓道連盟で行っていただいた壮行射会と良い強化ができたのではないかと思います。

さて、いよいよ千葉に乗り込みましたが、練習会場の数的数が少なく、各県とも調整に苦労されている中、幸いにも千葉県のとある高校で練習させていただくことができ、大変良いコンディションで競技に臨むことができました。第1日目の10月1日、近的の予選が始まりました。1回目は9中とまずまずの滑り出しでした。練習会場でも12射皆中を何度か出しており、この調子であれば2回目は的中が上がるであろうと思いましたが、それがチーム全体の油断につながったのか、8中に終わりました。合計17中が3チームあり、1チームだけが決勝トーナメントにすすめる競射となりました。

競射では2中と、3中の新潟県に敗れ、決勝トーナメント進出を逃しました。調子が良かっただけに大変残念な、悔しい結果でしたが、切り替えるしかありません。すぐに翌日の遠的に向け、最後の調整を行いました。

第2日目、遠的競技が始まりました。1回目は63点と練習通りの力を発揮してくれました。近畿ブロック前から、控え選手も含め、5人で100点を目標に(時にはアイスクリームをかけて)練習してきましたので、3人で60点あまりは目標通りの数字でした。そして、2回目はチームキャプテンの加藤が10点を2本的中させ、チーム合計80点と、素晴らしい数字を出してくれました。合計143点は、決勝トーナメント進出の安全圏と思われたので、午後からのトーナメントに向け、早くから調整に入ることができました。実際に1位通過となり、トーナメント抽選に臨みました。最後まで射場の変わらない1番を引いてくると言って臨んだのですが、幸運なことにその通りとなり、1回戦は岡山県と対戦することになりました。

対岡山戦は、両チームとも得点が伸び悩みましたが、奈良は中立の峠谷と大落の加藤の頑張りで何とか49対40で勝つことができました。

2回戦は、1回戦で81点を出して山口県を破った山梨県でした。山梨の的中が控えのホワイトボードに書いてあり、選手たちには少し動揺が見えましたが、「100点アイスつもりで引こう。それで負けたら、しゃあない。」と試合に臨みました。3人とも実力を発揮し、69点对60点と山梨に勝利しました。

決勝は、これまで安定した得点をあげている熊本県との対戦となりました。「普段通りで。気持ちのいい矢を出そう。」と試合に臨みましたが、やや硬くなったのか、生田、峠谷が1本目を続けて外し、その後追い上げたものの、及ばず54点对66点で敗れました。あと一步というところで優勝を逃しましたので、悔しい気持ちはありましたが、それ以上に選手たちの頑張りに対して「よくやってくれた。ありがとう。」という思いが強くなりましたので、「おめでとう」と声をかけました。

選手たちは、この大会のために本当によく練習し、頑張ってくれました。控えの竹花、横谷も素晴らしい選手ですが、大会ではサポート役として3人の正選手をよく支えてくれました。何より5人であることが楽しく、笑いの絶えないチームであったことが、監督にとって本当にありがたいことでした。選手たちには、この経験と国体をとおしてできた人とのつながりを、これから生きていくための大きな力にしてもらいたいと思っています。

最後になりましたが、チームを支えていただいた多くの方々にお礼を申し上げます。会長の吉本先生をはじめ、県弓道連盟の方々には、ご指導や激励のお言葉をいただき、本当にありがとうございました。

## ■ 全日本選手権に出場して

奈良県代表 西浦 範光

久しぶりに大きな緊張を経験しました。その矢先、離れで弓を落とす「失」をやってしまいました。もう頭の中が真っ白になり、「失」の処理に一瞬とまどい、座った時には「次の射は絶対弓を落としてはいけない。手の内だけを気をつけて引こう。」と、その思いばかりが頭の中を何回も何回も巡っていました。2本目は弓こそ落とさなかったけれど、「ビク」をしてしまいました。的中こそすれ「失」を2本ともしてしまいました。後半の2本は「何とか挽回を。」と思ったものうまききませんでした。

奈良県の代表として皆さんから送り出してもらいながら、期待に応えられなかったことを申し訳なく思います。もちろん予選を通過することはあまり考えていなかったのですが、不甲斐ない射をした自分に腹を立てています。

会長から「気楽に行って、いい経験をしてきなさい。」と言われたことがどれだけ身に付いたのかはわかりませんが、これからの精進で決まってくるのかなと思います。

不甲斐ない成績で申し訳ありませんでしたが、皆様のご声援のお陰でまたひとつ大きくなれるチャンスをいただいたように思います。

ありがとうございました！

## ◆第63回 近畿高等学校弓道大会 団体県予選会

9月12日(日)、橿原公苑弓道場に於いて、11月7日に京都市武道センター弓道場で行われる近畿高等学校弓道大会出場を目指し、男子20校35チーム、女子18校33チームが参加し団体予選が行われた。上位3校が出場権を手にした。結果は次の通り。

### 【男子団体】

- ① 王寺工業高校Aチーム(24射18中)  
向本啓太 寺澤伸太 爲平啓太 坂口昌且
- ② 橿原高校Aチーム(24射18中)  
甲斐太一郎 吉村和也 山本雅也 桜井雄登
- ③ 高田商業高校Aチーム(24射18中)  
本川侑樹 小林亮仁 栗村遼 池田尚輝

### 【女子団体】

- ① 郡山高校Aチーム(24射14中)  
野田理恵 吉岡沙織 山岡つばさ 小笹夏海
- ② 登美ヶ丘高校Bチーム(24射14中)  
田井中咲衣子 濱口貴子 吉井沙織 田中亜実
- ③ 奈良大附属高校Aチーム(24射12中)  
中田英里 丸尾栞 峠谷亜由 丸尾加奈子



近畿連合審査 (9月26日 大津市)

五段 合格 中井 達男(奈良市)さん

## ◆第63回 県高等学校総体 弓道競技会

9月23日木曜日、橿原公苑弓道場に於いて、18・19日の南・北の予選を通過した個人男子35名・女子17名、団体男子17チーム・女子20チームで決勝が行われた。個人の入賞者男女各10名は、11月6日に京都市武道センター弓道場で行われる近畿高等学校弓道大会に出場する。結果は次の通り。

### 【男子個人】

- ① 向本 啓太(王寺工業)② 吉村 和也(橿原)
- ③ 山本 雅也(橿原) ④ 田中 智(高田商業)
- ⑤ 宗岡 達貴(橿原) ⑥ 柴原 寛(榛生昇陽)
- ⑦ 高田 直哉(王寺工業)⑧ 尾崎 龍太郎(五條)
- ⑨ 西出 和真(王寺工業)⑩ 横井 稜(平城)

### 【女子個人】

- ① 嶋田 麻季(法隆寺国際)② 平田 実咲(橿原)
- ③ 山上 由加里(平城) ④ 生田 瑞貴(高田商業)
- ⑤ 吉崎 麻帆(奈良北) ⑥ 横谷 奈津希(西の京)
- ⑦ 柴田 侑華(法隆寺国際)⑧ 西岡 幸菜(奈良)
- ⑨ 小倉 成美(郡山) ⑩ 杉本 光(郡山)

### 【男子団体】

- ①王寺工業A(寺澤 米田 爲平 古川)
- ②橿原B(甲斐 吉村 山本)
- ③五條A(山本 尾崎 田中)
- ③王寺工業B(向本 森本 中井)

### 【女子団体】

- ①高田商業H(鶴谷 高橋 生田)
- ②奈良北A(岡田 吉岡 永樂 新垣)
- ③平城J(西田 津田 吉西)
- ③ 橿原A(不破 塩田 石橋)

## スポーツ指導員養成講習会

須田 三郎先生の講話 その1-1

(8月1日の講習会でのお話を数回に分けてお届けします)

### 弓道の特性

古い会員の方はご存知のことと思いますが、以前は、段位審査の学科試験に「弓道が他のスポーツに比べて優れている点を述べよ」といった問題が出され、受審者は他の種目を悪し様にいうことで弓道の特性を列記したものでした。当然、批判が出てこの種の問題は程なく姿を消しました。

昔と違って誰もが自由に趣味を選択できる時代、老若男女関係なく楽しめるはずの弓道が、今日、それ程の広がりを見せないのはなぜか。それはやはり弓道にあまり魅力を感じないからに違いありません。そこで弓道の特性を、いわば「裏側」から見てみましょう。

きわめて一般的にあげられる「精神面の特性」は特に弓道のみならず、どのスポーツ種目にも当てはまる特性ではないでしょうか。また「礼という特性」についても、外来の種目にもそれなりの礼というものがあるのであり、その質が異なるだけではないかと思えます。

「体育面の特性」・実はこれが大問題なのであって、「静的で年齢・性別・体力に関係なく誰でも可能」という点が、逆に弓道の曖昧さとなっているのです。体力の増強にそれほどの効果はない、周囲と協力し励ましあって苦痛を乗り越える忍耐力をつける点でもあまり期待はできない。運動能力の劣った人でも可能で、高校生などのジュニア世代では、この特性から弓を始める人が案外多いのです。

競技としての特性から見ると、基本的に集団での競技ではないので、他と比較して自分の実力を判断し難く、どうしても一人よがりになりやすい。また、競技そのものに変化が少ないので、見ていて面白みがない。飛距離を競う「遠矢」や昔の「通し矢」などと違って、競技者の努力の成果が一般の未経験者には理解できない。静的で動きが少なく、爽やかさ明るさに欠ける…などなど、普及にはマイナスの面と考えられます。

このような特性つまり欠点を有する弓道を私たち一人一人がどう考えるのか。

現代弓道の意義や理念については教本の一巻から四巻まで、総体的にまたそれぞれの先人の個人的なお考えが詳細に述べられています。それらをも参考に「伝統文化の担い手として、弓道の何を後の人々に伝えていくのか」このことを自分のなかで確立しておくことは指導者の原点としてたいへん大切だと思います。(以下次号に続く)

## ■香芝支部「蒼穹会25周年記念射会」

蒼穹会：牧浦

香芝市鎌田に手作りの道場を構えた「蒼穹会」が今年25周年の節目を迎えることから、記念射会を5月23日(日)に香芝市立香芝中学校の道場で行いました。

今年2月に前会長の中埜広樹先生を亡くし、喪に服する意味でも今回の開催を断念することを考えました。しかしながら、先生が生前とても楽しみにしておられたことを思い出し、今回は会のメンバーだけでの開催を決定しました。

当日は悪天候にもかかわらず、たくさんの会員が参加し、香芝市体育協会理事の竹村邦夫先生にもお越しいただきました。また、中村敬三先生もお元氣な姿(ダジャレも含め)を見せてくださいました。射会は土谷会長の矢渡しに始まり、終始和やかな雰囲気の中で行われました。

蒼穹会はこれからも互いに精進を重ね切磋琢磨してまいりますので、よろしく願い申し上げます。

